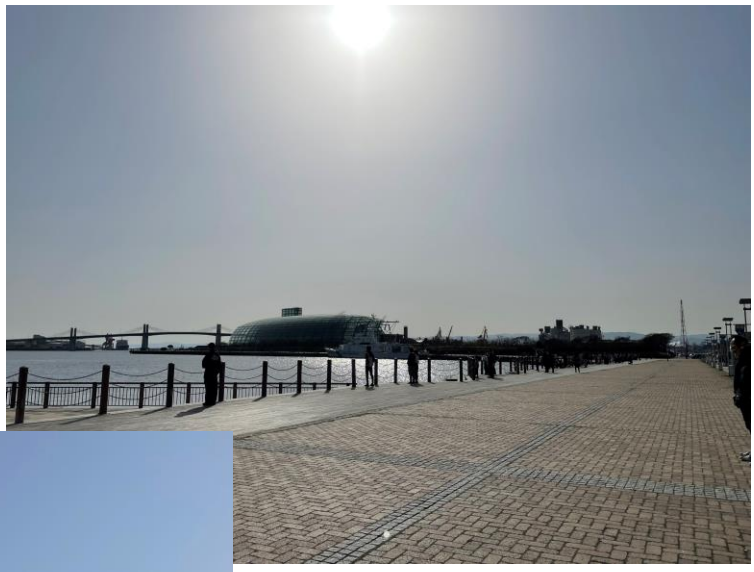
エコアクション21
認証・登録番号 0002470

エコアクション2１
環境活動レポート２０２３

【活動期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日】



震災から１２年を迎えた小名浜港
陽光の下市民が集い、祈りを捧げる
（2023 年 3 月 11 日 14 時 46 分）

株式会社アメニティいわき

目　次

１．　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

２．　会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

３．　環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

４．　環境負荷の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

５．　環境目標（3ヶ年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

６．　環境活動の主な取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

７．　２０２１年度環境活動計画の目標と実績・・・・・・・・・・　１３

８．　環境活動計画の取組結果と評価及び次今後の取組計画・・　１４

９．　表彰等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

１０．　SDGs宣言書を策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

１１．　代表者の全体評価と見直しの結果・・・・・・・・・・・・・・・　２０

１２．　環境関連法規への違反・訴訟等の有無・・・・・・・・・・・　２０

１３．　許可の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

１４．　施設等の状況（収集運搬）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２

１５．　廃棄物処理料金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

１６．　受託した廃棄物の処理量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

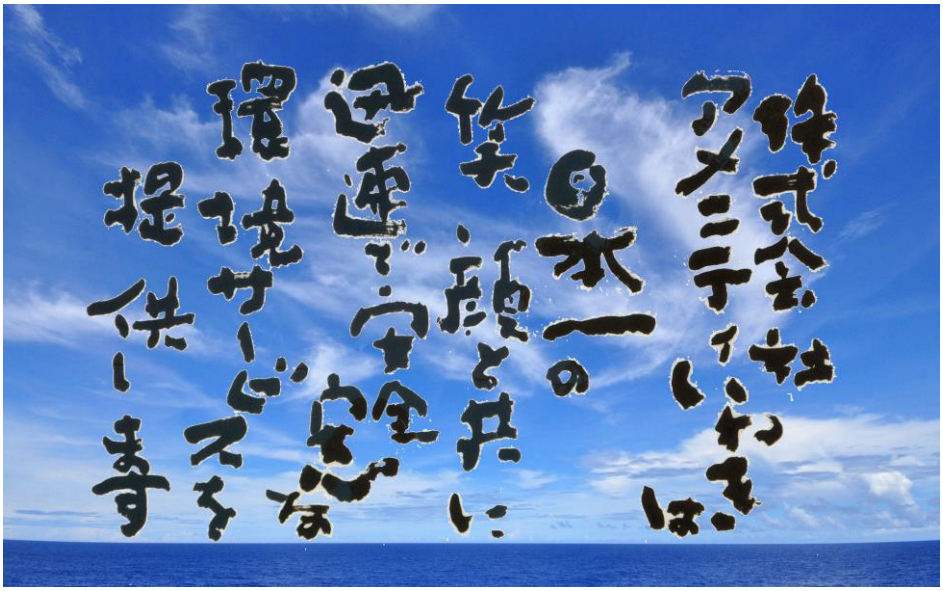
1．はじめに

２０１１年３月１１日――。

私たちは東日本大震災で被災し、それに続く原子力災害に、今もなお見舞われています。地震の最中はあまりの揺れの激しさに死をも予感いたしました。同級生の何人かは津波で家を失い、命を落としています。幸いなことに、私たちは微細な被害で全員無事に乗り越えることが出来ました。

現在もいわき市では、放射線のモニタリングポストが、450台（リアルタイム線量測定システム395台・可搬型モニタリングポスト55台）設置されています。測定値はネット上でリアルタイムに公表しています。また、福島第一原発内に保管されているALPS処理水についても、政府はこの夏、海洋放出する方針です。私たちは、自然の驚異に畏怖の念を抱きつつ、未来を担う子供たちのために、放射能で汚れてしまった山を、川を、海を少しでも安心して暮らせるようにしたいと思います。必ず実現させると決意しています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

株式会社アメニティいわき
代表取締役　　根本　宏



株式会社アメニティいわき　経営理念

2. 会社概要

(1)事業所名　株式会社アメニティいわき

(2)代表者　代表取締役社長　根本　宏(2003年5月31日就任)

(3)所在地　福島県いわき市小名浜君ケ塚町5番地の9

(4)法人設立　1967年4月1日 (創業　1951年11月1日)

(5)沿革

1951年11月　1日　磐城清掃社　設立　一般廃棄物収集運搬業
1967年　4月　1日　有限会社いわき清掃社設立　資本金　100万円
1978年　4月　1日　産業廃棄物収集運搬業・浄化槽保守点検業
1991年　4月　1日　株式会社アメニティいわきに組織変更
2002年　3月18日　ISO14001認証登録
2008年　5月14日　エコアクション21認証登録

(6)資本金　1，000万円

(7)その他の役員

取締役会長	根本　茂	(2003年5月31日就任)
取締役専務	根本　正	(2003年5月31日就任)
取締役	本多　綾	(2017年6月1日就任)
監査役	根本　やす子	(2002年3月25日就任)

(8)事業内容　**＜株式会社　アメニティいわき＞**

- 一般廃棄物収集運搬業(し尿・ごみ)
- 産業廃棄物収集運搬業
- 浄化槽保守点検業、清掃業、工事業
- 機密文書出張裁断業務
- 不用品回収

暮らしを、まちを、もっとキレイに。
amenity iwaki Group
「アメニティいわきグループ」ロゴマーク

(9)グループ会社およびその事業内容

＜有限会社　カンセイ＞

- 排水管高圧洗浄工事
- 管工事業
- 浄化槽保守点検業
- ビル管理に関する業務
- トイレ診断、トイレ施設に関する管理業務
- 尿石防止剤、尿石除去剤販売

＜有限会社　第一環境管理センター＞

- SN式浄化槽汚泥濃縮車に関する業務
- 浄化槽、浄化槽汚泥濃縮車に関係する環境製品の研究開発

(10)環境管理責任者の氏名および連絡先

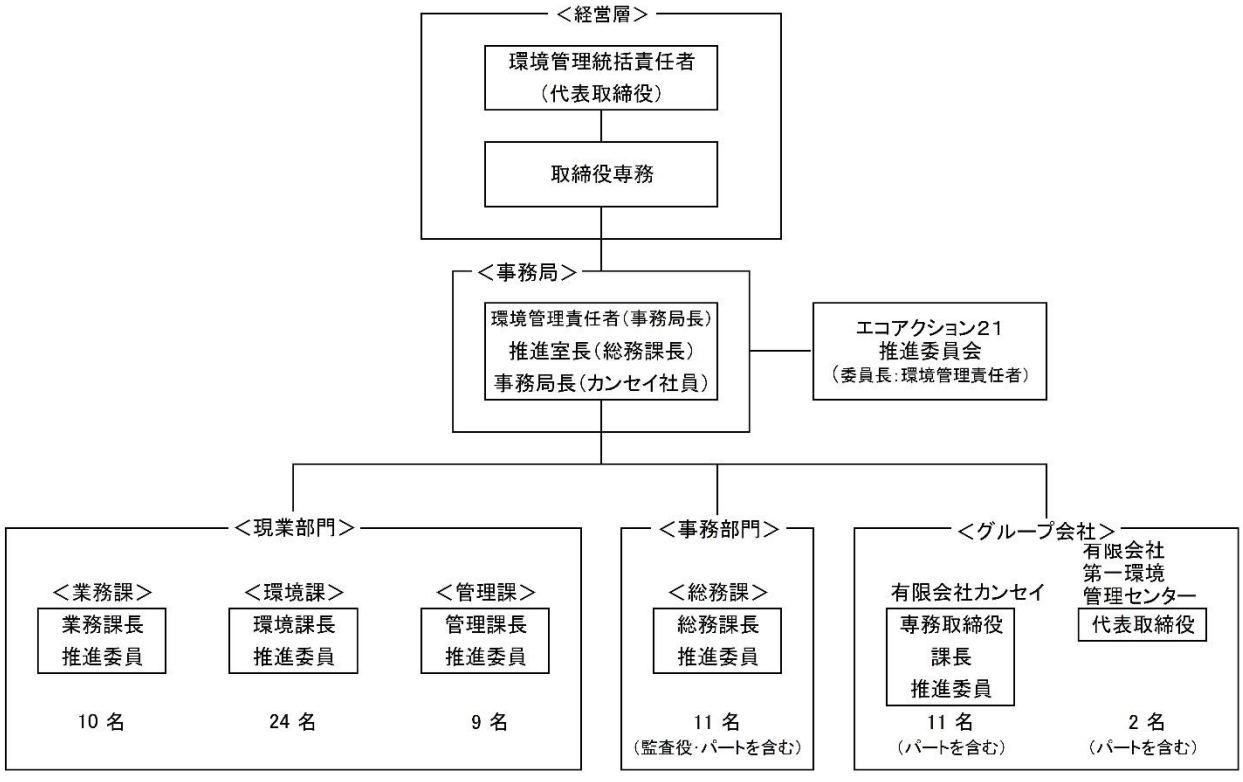
環境管理責任者	三神輝雄
ＴＥＬ	０２４６－５４－２８３８
ＦＡＸ	０２４６－９２－５５０５
ＵＲＬ	https://www.amenityiwaki.co.jp
e-mail	info@amenityiwaki.co.jp

(11)事業規模

資本金	1，000 万円
従業員数	68人(役員4名、事務職8名、技術職53名、パート3名)
敷地面積	4，231.17㎡
建築面積	1，542.57㎡
売上高	549,570千円(2023年1月期・単体)
	741,823千円(2023年3月期・連結売上高)

(12)組織図

株式会社アメニティいわき　エコアクション21実施体制及び業務体系



2023年8月1日現在

3. 環境方針

株式会社アメニティいわき
環境方針

【環境理念】

当社が、事業活動を行う「いわき」は、広大な市域面積を有し、東に太平洋、白砂青松の海岸線、西に阿武隈高地、そこに源を発するいくつもの河川など豊かで多様な自然資源に恵まれています。この環境を保全し次世代への継承と循環型社会を構築するために、社員一人ひとりが誠実に地域と連携して、資源の有効活用や廃棄物の再資源化に努め、安全・安心な環境サービスを行っていきます。

【行動指針】

1. 環境関連法規等の順守

事業活動に関わる環境関連法規・条例・協定など、当社が同意したその他の要求事項を遵守します。

2. 資源、エネルギー等の効率的な活用

水資源や電気・化石燃料等の消費による環境への負荷・資源枯渇等を認識し、省資源・省エネルギーの推進を図ります。特に浄化槽の清掃事業においては、当社開発の汚泥濃縮車を活用し、車両燃料の削減と浄化槽の処理水のリサイクルに努めます。

3. 廃棄物発生の抑制と再資源化の推進

自社内はもとよりお客様の廃棄物においても発生抑制や分別の徹底により再資源化を推進し、廃棄物の最小化と適正処理を進めます。

4. 汚染の予防及び継続的改善

環境の汚染に対し、様々な緊急事態を想定し訓練することで予防・緩和措置をとり、汚染の予防を実施します。また、環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組みます。

5. 全員参加による地球環境保護の実践

全社員が地球温暖化の現状や環境経営の意義・組織の環境方針を理解し、環境目標を設定して自ら積極的に実践します。また地域になくてはならない事業所として、社会や地域貢献活動・環境保護に努めます。

6. グループ会社の対応

当社事務所に同居する有限会社カンセイ・有限会社第一環境管理センターも一体となって、上記に掲げる環境活動を推進します。

■この環境方針は全従業員及びサイト内で働く全ての人に周知すると共に社外に開示する。

2017年2月1日
株式会社アメニティいわき
代表取締役　　根本　宏

4. 環境負荷の現状

【1】環境負荷の現状（2007年度～2020年度）

下の図は、エコアクションの認証へ向けて取り組み始めた2007年度を基準年（100%）とし、「二酸化炭素排出量」「総排水量」「廃棄物排出量」および当社の事業活動である「受託リサイクル量」の総量の実績である。なお電力消費による二酸化炭素排出量の係数は黄色の帯状の数値（東北電力発表）を採用している。

環境負荷項目	年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
	3社売上合計（百万円）	596	622	578	571	637	709	699	775	666	722	734	738	811	798	755
二酸化炭素排出量	排出量（t/年）	371.5	360.4	370.2	385.1	431.2	437.0	467.5	445.5	404.9	428.8	426.4	427.2	427.3	411.9	429.5
	東北電力排出係数	0.473	0.469	0.468	0.429	0.547	0.600	0.591	0.571	0.559	0.548	0.523	0.528	0.521	0.457	0.482
	2007比	95%	92%	94%	98%	110%	111%	119%	113%	103%	109%	109%	109%	109%	105%	109%
総排水量	排水量（㎥/年）	1,036	1,055	1,164	1,196	1,312	1,466	1,558	1,367	1,353	1,233	1,311	1,248	992	982	1,083
	2007比	102%	104%	115%	118%	130%	145%	154%	135%	134%	122%	130%	123%	98%	97%	107%
廃棄物排出量	排出量（kg/年）	467.77	422.01	370.78	336.63	350.85	279.28	267.08	297.56	333.14	367.48	354.54	403.78	526.06	461.78	476.06
	2007比	100%	90%	79%	72%	75%	60%	57%	64%	71%	79%	76%	86%	112%	99%	102%
受託資源物のリサイクル量	受託量（t/年）	949.0	1,032.2	1,019.0	1,109.3	1,279.2	1,756.3	2,297.2	2,281.4	2,360.9	2,331.0	2,270.6	2,114.5	2,064.6	1,991.0	2,479.1
	2007比	100%	109%	107%	117%	135%	185%	242%	240%	249%	246%	239%	223%	218%	210%	261%

5. 環境目標（3ヶ年）

環境負荷は事業活動の拡大、すなわち売上や保有する車両台数、また従業員数によって大きく影響される。アメニティいわきグループでは、エコアクション21を「環境経営システム」であるととらえ、環境負荷を各年度の総売上高（百万円）で除して、数値化している。それによって、100万円を売り上げる際にどのくらい環境負荷をかけているか、言い換えれば、自分たちが効率のいい業務ができているかを評価することができる。2015年4月に環境省が策定した「エコアクション21　CO2削減プログラム」の手引きにも「必要に応じて総量だけでなく、売上高や生産高などを用いて原単位を分析するとより有効です。」と記載されている。

次ページの表は、2021年度を基準年（環境負荷数値／総売上高）とした、2024年度までの各年度の環境負荷指数（%）の目標一覧（環境目標）である。

環境目標一覧表（2021～2024 年度）

環境負荷項目	年度	2021（基準）	2022（目標）	2023（目標）	2024（目標）
二酸化炭素排出量	排出量（t/年）	429.50	425.21	420.91	416.62
	売上原単位（t/百万円）	0.569	0.563	0.557	0.552
	2021比（%）		99.0%	98.0%	97.0%
総排水量	排水量（㎥/年）	1,186	1,174	1,162	1,150
	原単位（㎥/車両台数）	18.25	18.06	17.88	17.70
	2021比（%）		99.0%	98.0%	97.0%
廃棄物排出量	排出量（kg/年）	476.06	471.30	466.54	461.78
	原単位（kg/社員数）	6.80	6.73	6.66	6.60
	2021比（%）		99.0%	98.0%	97.0%
化学物質使用量	使用量（kg/年）	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
	2021比（%）				
グリーン購入	対象商品率	90%	90.0%	90.0%	90.0%
	2021比（%）		現状維持	現状維持	現状維持
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスについての環境配慮	エコドライブによる燃料削減	実施	実施	実施	実施
	環境関連クレーム発生数	0件	0件	0件	0件
受託リサイクル量	受託量（t/年）	2,479.1	2,503.9	2,528.7	2,553.5
	売上原単位（t/百万円）	3.28	3.21	3.24	3.27
	2021比（%）		101.0%	102.0%	103.0%
地域貢献活動の実施	回数（回/年）	2	2	2	2
	2021比（%）				

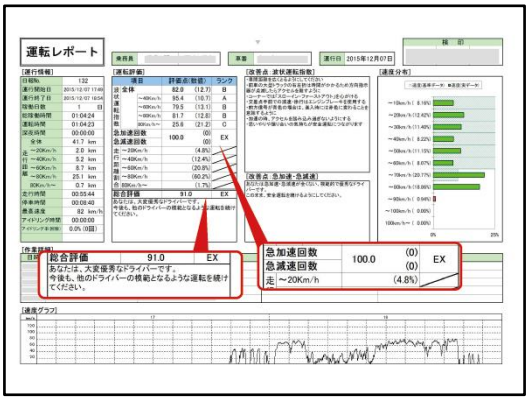
6. 環境活動の主な取り組み

1. 二酸化炭素の排出抑制

エコサムを導入し、波状運転の低減を推進

2007年より40台にデジタコ(デジタルタコグラフ)を装着し、エコドライブに取り組んできたが、2017年11月、新たに全車両に「エコサム」を導入した。

この機器はGPS機能により車両の運行状況を把握し、波状運転・急発進・急ブレーキが数値化される。帰社後に専用 PC に接続すると、ドライバーごとに運転レポートが作成され、運転のクセや指摘事項が発生した場所が表示される。毎月の全体朝礼で表彰を行い、社員のモチベーションアップにつなげている。



太陽光発電システムを導入

当社は2021年6月から社屋の増築工事を行い、12月に竣工した。その際、令和3年度福島県自家消費型再生可能エネルギー導入支援事業(脱炭素×復興まちづくり推進事業)補助金に交付申請し、採択された。具体的には、増築した社屋の屋上に88枚の太陽光モジュールを設置、また新しい従業員入口付近に蓄電池とV2X※ を設置して、2022年7月から稼働している。蓄電池は災害時の電力に、V2Xは本年2月に納車された日産電気自動車・リーフに活用している。

※Vehicle to X(Everything)の略称・・・・車と何か(車や歩行者、インフラ、ネットワークなど)との接続や相互連携を総称する技術のこと。

太陽光パネル

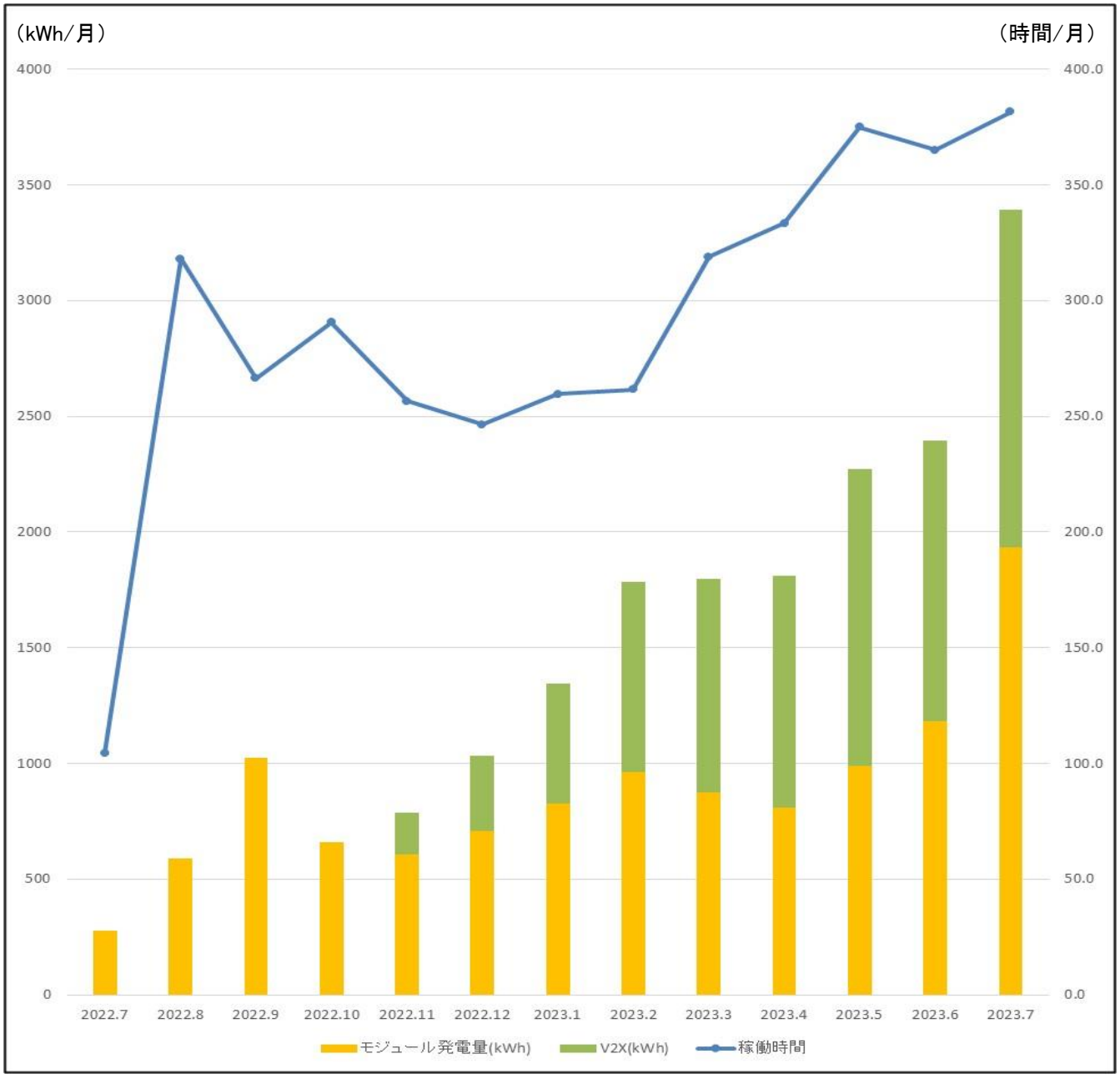
V2X(左)と蓄電池(右)

発電量の推移

下図は2022年7月から2023年7月までの発電量の推移を示したものである。

本年2月以降適切なデータが取られ、太陽光モジュールによる発電量（黄色）とV2Xによる発電量（緑）を合わせると、冬期間で1800kWh/月、夏期間は3400kWhが発電されている。発電量は、その土地の日照時間や日射量によって左右されるが、当社があるいわき市小名浜は国内有数の日照時間が多い地域として知られ、夏期間は一日平均12時間以上の日照時間が得られている。

＜太陽光発電の推移（2022.7～2023.7）＞



2. 総排水量の削減

雨水タンクの使用

作業車両の洗車に使用する水使用量を
抑制するため、雨水タンクの使用を心がけた。
雨水タンクは当初2基だったが、現在は6基へ増設し、
浄化槽の張り水として活用している。

雨水タンク

業務車両洗車の効率化

20年以上にわたり使用してきた洗車機を廃棄し、
2013年秋には、据え付け式と移動式の洗車機
を導入。効率的な使用方法を環境管理責任者
の担当で研修した。特に毎日の業務終了後に
必ず洗車を行うゴミ収集の部門では、洗車時間
を決めて効率化に取り組んでいる。

3. 廃棄物排出量の削減

定められた分別マニュアルを順守し、分別容器を使用するなど、従来取り組んでいたので、その徹底を継続した。また、なるべく社内にごみを発生させないようにし、社内から排出される可燃物重量を廃棄物全排出量の30％以内にするように取り組んでいる。

4. 化学物質使用量の削減

当社では化学物質を製造していないが、ゴミ収集車などの作業車両を洗車した後は、汚水枡内の水素イオン濃度（pH）を適正値に保つため、次亜塩素酸ナトリウム（ジアソー）を使用して希釈し下水道へ放流している。グループ会社である有限会社カンセイがトイレメンテナンス業務の際に使用している薬剤、有限会社第一環境管理センターで販売している高分子凝集剤及びソーダ灰については、いずれもPRTR制度の対象となる化学物質ではない。

5. グリーン購入

当社で購入する事務用品はグリーン商品を選んでいる。社員の作業着もエコマークがついている商品を購入し、毎年衣替えの6月と10月に配布している。その際、汚れやスリ切れなどがある作業着については、企業イメージアップも考慮して、社員から提出してもらい、古着を回収するNPO法人へ提供している。それらの古着は自動車の内装資材へリサイクルされている。

6. 自らが生産・販売・提供する商品及びサービスについての環境配慮

前述したエコサムを導入し全員で波状運転の改善によるエコドライブに取り組み、燃料の削減につながっている。自然と安全運転になり、運転技術やマナーが向上している。それは廃棄物収集作業を行うことにも好影響をもたらし、作業に関する苦情やクレームもほとんど発生していない。

7. 受託資源物のリサイクル

事業系一般廃棄物のうち、缶、ペットボトル、段ボール・古紙などの資源物は専用車両で収集し、リサイクルの推進に努めている。
また個人情報保護について近年さらにその徹底は求められており、目の前で機密文書を裁断する出張裁断車「エコポリスバン」はほぼ毎日稼働している。

出張裁断車「エコポリスバン」

8. 地域貢献活動

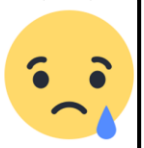
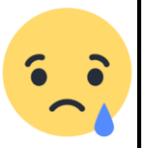
いわき市で主催している「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に6月と10月の年2回、全社員で参加している。
そのほか、いわき市が主催するイベントである「リサイクルフェア」には2008～09、2012～22年とほぼ毎年出展依頼を受け参加している。

3年ぶりの総ぐるみ運動（2022年10月）

盛況だったリサイクルフェア（2022年10月）

廃材（塩ビ管）を使った水鉄砲で射的を楽しむ

7. 2022年度環境活動計画（単年度）の目標と実績

環境負荷項目	目標・実績	年度	2021（基準）	2022 目標（上段）実績（下段）	
二酸化炭素排出量	目標	排出量（t/年）	429.50	425.21	
		売上原単位（t/百万円）	0.569	0.563	
		2021比（%）		99.0%	
	実績	排出量（t/年）	429.50	445.45	
		売上原単位（t/百万円）	0.569	0.600	目標未達
		2021比（%）		105.5%	
総排水量	目標	排水量（㎥/年）	1,186	1,174	
		原単位（㎥/車両台数）	18.25	18.06	
		2021比（%）		99.0%	
	実績	排水量（㎥/年）	1,186	1,010	
		原単位（㎥/車両台数）	18.25	15.54	目標達成！
		2021比（%）		85.2%	
廃棄物排出量	目標	排出量（kg/年）	476.06	471.30	
		原単位（kg/社員数）	6.80	6.73	
		2021比（%）		99.0%	
	実績	排出量（kg/年）	476.06	478.99	
		原単位（kg/社員数）	6.80	6.84	目標未達
		2021比（%）		100.6%	
化学物質使用量	目標	使用量（kg/年）	適正管理	適正管理	
		2021比（%）			
	実績	使用量（kg/年）	適正管理	0kg	
		2021比（%）		100.0%	目標達成！
グリーン購入	目標	対象商品率	90%	90.0%	
		2021比（%）		現状維持	
	実績	対象商品率	90%	90.0%	
		2021比（%）		現状維持	目標達成！
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスについての環境配慮	目標	エコドライブによる燃料削減	実施	実施	
		環境関連クレーム発生数	0件	0件	
	実績	エコドライブによる燃料削減	実施	実施	
		環境関連クレーム発生数	0件	0件	目標達成！
受託リサイクル量	目標	受託量（t/年）	2,479.1	2,503.9	
		売上原単位（t/百万円）	3.28	3.21	
		2021比（%）		101.0%	
	実績	受託量（t/年）	2,479.1	2,466.8	
		売上原単位（t/百万円）	3.28	3.32	目標達成！
		2021比（%）		101.2%	
地域貢献活動の実施	目標	回数（回/年）	2	2	
		2021比（%）			
	実績	回数（回/年）	2	2	
		2021比（%）			目標達成！

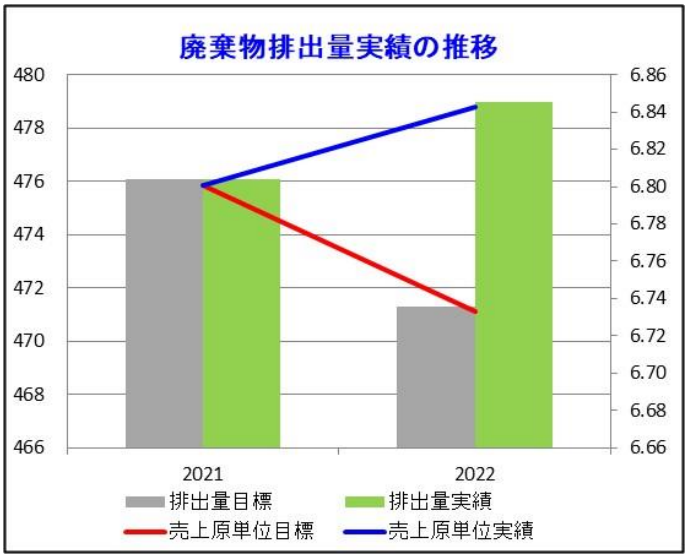
8. 環境活動計画の取組結果と評価及び今後の取組計画

2021年度を基準年（環境負荷数値／総売上高）とし、2024年度まで中期目標（3ヶ年）を掲げ取り組んでいる。今項では、3ヶ年間の結果・評価・特記事項、また今後の取り組み計画について示す。

1. 二酸化炭素排出量削減

2022年度の目標は、売上高原単位で2021年度比1．0%（0．006t-CO2／百万円）の削減を計画したが、結果として目標を下回る5．5% （0．031t－CO2／百万円）増加した。（実績を表す青色の折れ線グラフが目標を表す赤色の折れ線グラフをかなり上回っている）

軽油使用量が前年と比較して年間で約一万リットル増加しており、一方で売上が微減していることが原因である。



今後の取組計画

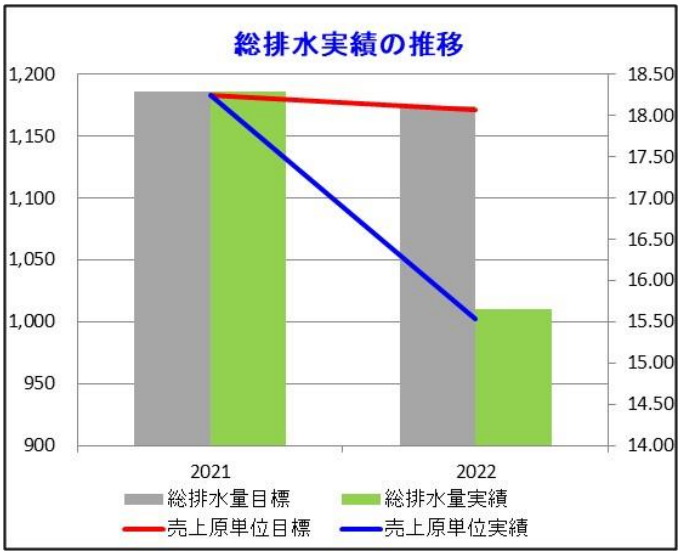
太陽光パネルや蓄電池・V2Xは設置されたものの、部品調達の遅れやシステムの調整に時間を要し、また電気自動車の納車もされていない。今後は検討・研究をしながら、効果が十分現れるように運用していきたい。

2. 総排水量削減

2022年度の目標は、売上高原単位で2021年度比 1．0%（0．19㎥/台）の削減を計画したが、目標を大きく上回る14．8%（2．71㎥／台）の削減を達成することができた。車両台数はかわらないものの、効率的な洗車ができていると思われる。

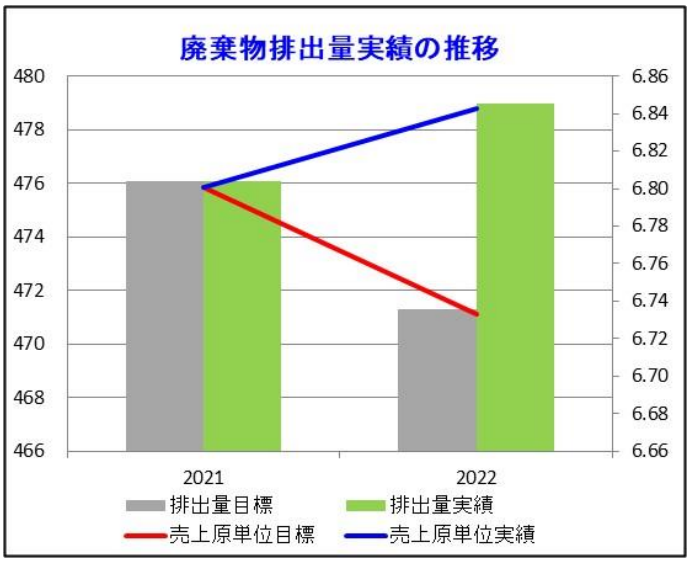
今後の取組計画

引き続き効率的な洗車方法について教育していきたい。



3. 廃棄物排出量削減

2022年度の目標は、社員数原単位で2021年度比 1．0%（0．07kg/人）削減することだったが、0．6%（0．04kg/人）と微増してしまった。分別の教育や徹廃がされていないことなどが原因としてあげられる。



今後の取組計画

分別のルールを常に最新のものにし、再度社内にリサイクルを徹底し、社内ゼロエミッションへの検討を行う。

4. 化学物質使用量の削減

2022年度も当社では化学物質を製造していない。一方で、廃棄物の収集部門（環境課）で家電販売店等に販売しているハイメルツ溶剤にPRTR法に該当する物質が含まれているが、ハイメルツ溶剤の製造販売元との取引が終了したため、今後は該当する事案はなくなった。

今後の取組計画

ゴミ収集車などの作業車両を洗車する際に使用する次亜塩素酸ナトリウム（ジアソー）や、有限会社カンセイがトイレメンテナンス業務の際に使用している薬剤、有限会社第一環境管理センターで販売している高分子凝集剤・ソーダ灰について、その数量を把握できるように業務の工夫を検討する。

5. グリーン購入

事務部門で購入する事務用品はすべてグリーン製品だった。しかし購入する業務車両用のタイヤのうちリサイクル品ではなく新品のものがある。

今後の取組計画

来年度はもう一度事務用品及びタイヤその他業務で使用する商品を検討し、リサイクルされたものでなくても、環境に配慮し製造された商品を積極的に使用していくことにしたい。

6. 自らが生産・販売・提供する商品及びサービスについての環境配慮

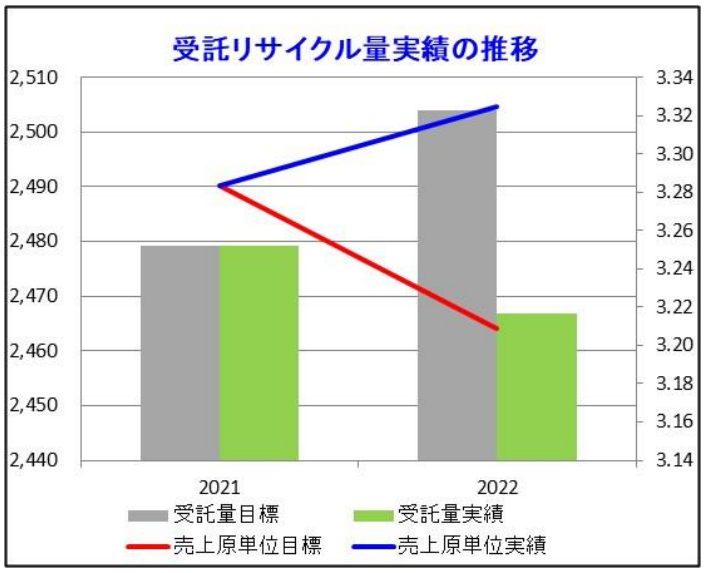
当社が提供する環境サービスには、お客さまや地域住民の皆様、行政関係者から高い評価を頂いている。また環境に関しての苦情やクレームも受けていない。またドライブレコーダーを全車両に搭載し、そのほかエコサムやアルコールチェッカーの導入など、社員の安全を守る具体的な方策を取っている。

今後の取組計画

引き続きエコサムを使用して波状運転の抑制とふんわり運転の推進を社員全員で取り組んでいく。またドライブレコーダーについては、無作為に作業車両から取り外し、社員の運転状況について確認し、市民の皆様から信頼をより得られるような心構えや運転技術を指導していく。

7. 受託リサイクルの推進

当社オリジナルの取り組みだが、売上高原単位で2021年度比1．0%（0．04t/百万）増加させるとの計画目標に対して、1．2%（0．04t/百万）の減少となり目標には未達だった。受託量は増加したが、売上減が原因である。



今後の取組計画

引き続き当社の顧客にさらなる分別とリサイクルを啓蒙し、循環型社会構築の活動を大きく推進していきたい。

6. 地域貢献活動

2022年及び2023年の4月、小名浜第一小学校4年生の遠足コースになり、当社のリサイクル事業の様子をごらんいただいた。ごみ搬入の体験や実際に運転席に座ってみるなど、小学生とともに社員も充実した楽しい時間を過ごすことができた。

10月には3年ぶりとなる「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」が実施。さらに同月、いわき市主催の「リサイクルフェア」へ感染対策に留意して出展し、市民からは概ね好評の声をいただいた。

今後の取組計画

今後もさらに地域に根ざした環境活動を行っていきたい。

暮らしを、まちを、もっとキレイに。

amenity iwaki Group

9.表彰等

「福島議定書」事業で最優秀賞（県知事賞）を受賞

平成22年には「福島議定書」事業の
事業所版「運輸・設備業」部門で「最優秀賞」
（福島県知事賞）を受賞した。

「ごみ減量化コンクール」優秀賞を受賞

平成23年には福島県「ごみ減量化コンクール」取組部門で「優秀賞」を受賞した。

「エコアクション21認証・登録10年継続事業者表彰

平成31年、「エコアクション21認証・登録10年継続事業者表彰」を受けた。

10. SDGs宣言書を策定

東邦銀行様の支援を受け、当社は2月１日にSDGs宣言書を策定した。

TOHO NEWS LETTER

２０２３年２月１日

株式会社アメニティいわき様が「ＳＤＧｓ宣言書」を策定されました！
～「とうほうＳＤＧｓサポートサービス」による「ＳＤＧｓ宣言書」策定支援～

東邦銀行（頭取 佐藤　稔）は、お客さまのＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）に関する取組みを支援するため、「とうほうＳＤＧｓサポートサービス（以下、本サービスとします）」をご提供しております。

この度、本サービスの利用を通じ、株式会社アメニティいわき様が「ＳＤＧｓ宣言書」を策定されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

本サービスは、ヒアリングを通してお客さまのＳＤＧｓへの取組状況の確認と、経営課題の見える化を行うことで、お客さまの課題解決に向けた具体的な取組みをサポートしております。

また、診断結果に基づく「ＳＤＧｓ宣言書」の作成により、お客さまの特色ある取組みを発信するとともに、社会全体でのＳＤＧｓの機運も高めております。

当行では、引続きお客さまのニーズに応じたサービスを提供し、お客さまの成長・発展、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

記

発行企業	株式会社　アメニティいわき
代 表 者	代表取締役　根本　宏
所 在 地	いわき市小名浜君ヶ塚町5-9
事業内容	一般・産業廃棄物処理業
企業概要	○一般・産業廃棄物の回収や浄化槽の適切な維持管理を通じて、地域のために迅速で安全・安心な環境サービスを提供しております。 ○再生可能エネルギーの導入や環境美化活動による地域社会への貢献等を通じて、ＳＤＧｓの目標達成に向け取組んでおります。

宣言書を手にする根本社長

東邦銀行グループでは、『とうほうＳＤＧｓ宣言』を制定し、グループ全体で地域経済の活性化や社会的課題の解決に向けた取組みを通して“地域社会に貢献する会社へ”を目指しています。

東邦銀行

SDGs宣言書

2023年2月1日

株式会社アメニティいわき

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた取組みを以下の通り宣言します。

カテゴリ	テーマ	具体的な取組み	ＳＤＧｓゴール
人権・労働	安全衛生	**従業員・お客さまの安全を第一に、良質な労働環境の整備に努めております。** 【具体的な取組み】 ・毎日の安全作業チェックを実施しております。（健康、アルコールチェック、免許証、体温、みだしなみ、車両点検） ・ヒヤリハットの状況等をもとに、ＫＹＴ（危険予知トレーニング）を毎月実施しております。 ・毎月1回、労働安全衛生委員会を開催し、現場調査の実施や労働安全、衛生面の意識向上に努めております。	
環境	廃棄物の削減 脱炭素・省エネ 水資源	**クリーンな事業活動を通じて、適正な資源の循環及び有効活用に積極的に取組み、環境の保全と循環型社会の実現に貢献しております。** 【具体的な取組み】 ・廃棄物の発生抑制や分別の徹底により再資源化を推進し、廃棄物の最小化と適正処理に取組んでおります。 ・太陽光発電設置によりカーボンニュートラルの実現を目指しております。 ・一人一人が節水を意識し、事業活動における水使用量の削減に取組んでおります。 ・浄化槽の適正な維持管理により、水質の維持・改善に取組んでおります。 ・地域の水資源保全のため、単独から合併浄化槽への入替を推進しております。 ・すべての人が安全・安心に使えるトイレを「トイレ診断士」が提供しております。	
内部管理 組織体制	環境経営 法令遵守	**廃棄物の収集運搬や浄化槽の保守点検清掃等、環境保全に貢献する企業としてコンプライアンス遵守の徹底を図ってまいります。** 【具体的な取組み】 ・資源の有効活用と省資源・省エネ・ＣＯ2排出量削減に取組み、環境の保全と循環型社会の実現に貢献してまいります。 ・ＩＳＯ14001・エコアクション21を通じて、環境経営を実践し、環境関連法規・条例・協定を遵守してまいります。 ・プライバシーマーク取得企業として、お客さま及び従業員の個人情報について適切な保護措置を講じてまいります。	
製品・サービス	品質・安全性の確保 環境配慮設計	**高品質かつ安全なサービスの提供と環境に配慮した車両の開発・活用により、住みやすい地域社会の実現に貢献しております。** 【具体的な取組み】 ・部署毎に環境目標を設定し、従業員の知識、技術、サービスの向上に取組むとともに、目標達成に向けた計画の定期的な監査と見直しを実施し、継続的に改善をしております。 ・「お客さまに喜んで頂く10項目」を掲げ、環境に配慮したサービスを提供しております。 ・当社開発のＳ-Ｎ式汚泥濃縮車を活用し「車両燃料、投入汚泥量の削減」と「浄化槽処理水のリサイクル」に努めております。	
社会貢献 地域貢献	地域づくり	**地域に根ざした企業として地域の環境美化活動に積極的に取組んでまいります。** 【具体的な取組み】 ・地域の清掃活動（いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動）や不法投棄廃棄物撤去活動へ積極的に参加してまいります。	

SDGsとは

「持続可能な開発目標（ Sustainable Development Goals ）」の略称です。2015年9月、国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で設定された、2030年を期限とする17のゴール（目標）と169のターゲットのことです。2030年までに、あらゆる貧困に終止符を打ち、不平等を是正し、気候変動に対処するなど「誰一人置き去りにしない」ための取組みを掲げています。

11. 代表者の全体評価と見直しの結果

太陽光発電は発電量も多く、蓄電池・V2Xから電気自動車へ充電し、順調に稼働していると思われる。今後も効果的でよりよい運用をすすめていきたい。

2月1日にSDGs宣言書を策定した。かたちだけではなく、真にひとりひとりがさらに成長し、社会に貢献できる会社として発展させて参りたい。

12. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

グループ会社も含め、環境関連法規への違反はなかった。さらにグループ会社の遵守状況もチェックした結果、問題はなかった。関係当局より違反の指摘も過去3年間ない。お客様及び地域近隣住人からの訴訟・苦情等もなかった。

暮らしを、まちを、もっとキレイに。

amenity iwaki Group

13. 許可の内容

【福島県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業（積替え及び保管行為を含まない。）
許可番号	第00709004940号
許可年月日	平成30年8月16日
許可有効期限	平成35年（令和5年）7月14日　※現在、県で更新許可審査中
産業廃棄物の種類	①燃え殻、②汚泥、③廃油、④廃酸、⑤廃アルカリ、⑥廃プラスチック類、⑦木くず、⑧繊維くず、⑨動植物性残さ、⑩ゴムくず、⑪金属くず、⑫ガラスくず、コンクリートくず（工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶磁器くず、⑬がれき類（これらのうち石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含み、自動車等破砕物、水銀含有ばいじん等及び特別管理産業廃棄物を除く。）　以上13種類
事業の範囲	福島県

【茨城県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業（積替え及び保管行為を含まない。）
許可番号	第00801004940号
許可年月日	令和2年5月28日
許可有効期限	令和7年2月14日
産業廃棄物の種類	①汚泥、②廃油、③廃プラスチック類（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物を含む。）④木くず、⑤ゴムくず、⑥金属くず（自動車等破砕物を除く。）、⑦ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物を含む。）、⑧がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む。）以上8種類
事業の範囲	茨城県

【栃木県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業（積替えを除く。）
許可番号	第00901004940号
許可年月日	令和3年4月9日
許可有効期限	令和8年4月8日
産業廃棄物の種類	（当該産業廃棄物に石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物又は水銀含有ばいじん等が含まれる場合はその旨）　積替えを除くもの。 ・廃プラスチック類
事業の範囲	茨城県

【いわき市】

事業の区分	一般廃棄物収集運搬業（積替え及び保管を除く。）
許可番号	いわき市指令第5511号
許可年月日	令和3年9月3日
許可有効期限	令和5年8月31日
一般廃棄物の種類	粗大ごみを含むごみ、し尿、浄化槽に係る汚泥
事業の範囲	いわき市

１４. 施設等の状況（収集運搬）

〇運搬車両の種類と台数

パッカー車１６台　ダンプ１台　脱着装置付コンテナ専用車４台　冷蔵冷凍車１台
出張裁断車１台　キャブオーバ３台　強力吸引車１台　糞尿車７台　汚泥濃縮車１台
計３５台

塵芥車（パッカー車）

ダンプ

脱着装置付コンテナ専用車

冷蔵冷凍車

出張裁断車（エコポリスバン）

強力吸引車

糞尿車

浄化槽汚泥濃縮車

15. 廃棄物処理料金

処理料金＝収集運搬料金＋処分料金　となる。なお見積りは無料にて行っている。

①収集運搬料金について

NO	車種	いわき市内	いわき市外（福島県内　郡山市を除く）
1	2t車	15，000円	20，000円～
2	2t脱着車	15，000円	20，000円～
3	4tクレーン付脱着車	25，000円	30，000円～
4	3tパッカー車	25，000円	30，000円～
5	4tパッカー車	30，000円	35，000円～

※地域によって別途の料金設定になることがある。

※高速道路使用時には料金が追加となる。

※消費税が別途加算される。

②処分料金について

NO	受入品目	単位	処分単価
1	混合廃棄物	㎥	6，500円～
2	汚泥	kg	25円～
3	廃油	kg	20円～
4	廃プラスチック類	㎥	6，000円～
5	木くず	㎥	4，000円～
6	動植物性残さ		現状確認後、ご相談の上
7	ゴムくず	㎥	6，000円～
8	金属くず	㎥	0円～家電リサイクル法の対象製品は別途
9	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	㎥	6，000円～
10	がれき類	t	2，000円～

※荷の状態等により、別途の料金設定になることがある。

※袋等に分けてある場合、料金について考慮される。※消費税が別途加算

③グリストラップ清掃料金について

NO	作業種類	単位	処理単価	条件
1	定期作業	㎥	25，000円～57，000円	0．3㎥～1．0㎥まで
2	スポット作業	㎥	32，000円～65，000円	0．3㎥～1．0㎥まで

16. 受託した廃棄物の処理量

2022 年度(2022 年 4 月　～2023 年 3 月)

産業廃棄物収集運搬

廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
燃え殻		0.00
汚泥		130.16
廃油		2.38
廃酸		0.00
廃アルカリ		0.00
廃プラスチック		93.98
木くず		18.46
繊維くず		0.00
動植物性残さ		0.00
ゴムくず		0.00
金属くず		70.87
ガラス・コンクリート・陶磁器くず		1.66
がれき類		5.37
廃石綿等		0.00
合計		322.88

一般廃棄物収集運搬

廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
可燃物	市の清掃センターにて焼却	4,489.40
不燃物	埋め立て	1.00
缶	リサイクル	225.80
ビン		134.70
ペットボトル		134.20
ダンボール		1,299.30
新聞紙		57.90
古紙		70.90
シュレッダー紙		48.70
紙管		0.00
機密文書		250.40
軟質プラスチック		197.50
硬質プラスチック		47.40
合計		6,957. 20

暮らしを、まちを、もっとキレイに。

amenity iwaki Group

株式会社アメニティいわき
発行日　２０２３年8月１日
住　所　〒971-8168
福島県いわき市小名浜君ヶ塚町５の９
TEL　０２４６（５４）２８３８
FAX　０２４６（９２）５５０５
E-mail　info@amenityiwaki.co.jp
発行責任者　三神輝雄（環境管理責任者）